

月報・日本から発信！

2月号の内容

「情報発信プラットフォーム」(1月)掲載の主要論文の要旨

社会不安を生む雇用の契約打ち切り

石塚雅彦 (フォーリンプレスセンター評議員)

突然の雇用の打ち切りが急速に広まり、それが日本が抱える重大な問題のひとつとなった。最悪の状況にはまだ到来していないとみられるが、驚くべき社会不安の拡大の速さには、典型的な特徴がみられる。労働市場が最も大きな打撃を受け、大きな社会不安を生んでいる。・・・比較的弱い通貨レート、預貯金に対する低い利率や低い賃金上昇率は、内需を弱める悪循環を形成しているといえる。これらに海外市場の低迷によるショックと急激な円高が加わり、より厳しい状況を迎えている。短期的には、失業者増大の影響を和らげるために、・・・

原文：Spector of Deeper Job Cuts Keeping Public on Edge
www.glocom.org/opinions/essays/20090106_spector_ishizuka

ASEAN 抜きの日中韓首脳会談:太宰府サミット

ドナルド・ウェザービー (サウスカロライナ大学名誉教授)

2008年12月13日に、日本、韓国、中国の首脳による歴史上画期的な三国首脳会談が、福岡県の大宰府で行なわれた。麻生総理は、中国の温家宝総理と韓国の李明博大統領を招き、初めての独立した東アジアを代表する三国による首脳会談を開いた。この会談を結論付ける共同声明において、各首脳は、この地域の平和と発展につながる協力関係の新たな時代を切り開いたと述べた。重要な点は、三カ国首脳が、透明性、相互信頼、共益と多様な文化の尊重を原則とし、・・・

原文：Three Minus ASEAN: The Dazaifu Summit
www.glocom.org/debates/20090109_donald_three

海図のないソマリア沖へ進む中国海軍

フィリップ・ソンダーズ (米国防大学国家戦略研究所)

中国による海賊対策のためのソマリア沖への三隻の特別部隊の配備は、中国人民解放軍にとって画期的な出来事である。中国海軍によるアジア以外の地域での戦闘配備は、中国のグローバルな経済利益の急速な拡大や自国を守るための軍事力の増強を際立たせている。これに対し、西側諸国やアフリカ諸国は、この危険な地域への安定のために船籍を派遣するという中国側の積極的な貢献への決意を歓迎している。しかし、特別部隊の限られた任務、相容れない政治的な目的、この地域における他国の海軍との行動を明らかに共に行かない態度などは、・・・

原文：Uncharted Waters: the Chinese Navy Sails to Somalia
www.glocom.org/debates/20090115_saunders_uncharted

米国だけを責められない他国も加担した金融危機

石塚雅彦 (フォーリンプレスセンター評議員)

米国のサブプライム問題と金融危機の背景には、不相応の大きな消費があったといわれる。高騰する住宅価格に信用を裏付けられた資金の高騰により、消費者は収入以上の消費を繰り返し、資産価格のバブルは弾け、金融システムは崩壊し、米国から世界中へ広がった。繁栄に終わりは無いという錯覚により、消費者はバブルを利用したといえるが、バブルに加担したことによって搾取されたとも考えられる。その終焉によって、米国の金融機関の不合理を批判することが流行っているが、・・・

原文：Quick to Rebuke US, Rest of World Had Part in Crisis
www.glocom.org/opinions/essays/20090126_quick_ishizuka

情報発信機構とは

「情報発信機構」は、日本をめぐる重要問題について有識者や専門家の意見や討論をグローバルに発信することを使命とする非営利組織。

ウェブ上では情報発信プラットフォーム(www.glocom.org)で、オピニオン、ディベート、ニュースなどを発信、またニュースレターやメールマガジンも定期的に発行。さらにセミナーも毎月開催。

情報発信ニュースレター：編集後記

月報・日本から発信！

月1回発行
発行人・編集長
前田幹博

学校法人国際大学・情報発信機構
106-0032 東京都港区六本木6-15-21
TEL:03-5411-6714 FAX:03-5770-1725

1月は上記4つを主要論文としてアップすることが出来ました。米国ではオバマ氏が大統領に就任し、世界の注目を集めています。その一方、毎日ニュースで放送される雇用不安が一日も早く改善され、世界各地の紛争が更なる犠牲者を出さないようにと祈るばかりです。2月もそのような重要な問題を論じた論文を掲載していくつもりですので、ご期待ください。前田幹博情報発信機構編集長